

(様式1)

自己評価表(令和5年度)

愛媛県立松山商業高等学校 定時制
学校番号(25)

教育方針	個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間の育成に努め、新しい職業観のもとに豊かな情操を身に付け、勤労と責任を重んずる資質を養い、国家社会の有為なる形成者として創造性と実践力に富む心身ともに健全な商業人の育成を期する。		重点目標	地域社会に根ざした商業教育の推進 — 地域の持続的発展を担う人材の育成 —		
領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策	R4評価
教科指導	各種検定試験への挑戦	各種検定試験の取得に全員が挑戦すること(挑戦率100%)を目指します。 A:100%、B:99%~80%、C:79%~60%、D:59%~40%、E:40%未満	A	生徒全員が各自の学習到達度に応じた検定試験及び上位級に挑戦した。挑戦率100%を達成した。	引き続き学習到達度に応じた検定試験に挑戦させ、自信や達成感を味わわせる指導を心がけていきたい。	A
		各種検定試験合格率70%以上を目指します。 A:70%以上、B:69%~60%、C:59%~50%、D:49%~40%、E:40%未満	B	本年度の合格率は68.6%であった。昨年度の合格率は59.0%であったのでやや高くなった。2年生を中心に意欲的に資格取得に取り組んだ。	生徒の検定試験への意欲を高めるとともに、きめ細かい指導を粘り強く継続していきたい。	C
	漢字テストへの挑戦	漢字テスト平均80点以上の生徒50%以上を目指します。 A:50%以上、B:49%~40%、C:39%~30%、D:29%~20%、E:20%未満	B	漢字テストの平均点が80点以上の者は、41.7%であった。一昨年度27.8%、昨年度の54.5%と比較すると、中間ぐらいの結果である。難易度が高くなったが、意欲のある生徒はよく頑張ったと思われる。	欠席した場合は0点という扱いになるが、今年度は欠席する生徒が多かった。テストを受けた時にはそれなりに努力が反映されているので、来年度は欠席を減らす取り組みとともに成就感・達成感を体験させていきたい。	A
	分かる授業の展開	個々の生徒に応じた丁寧な授業を実践し、授業の満足度100%を目指します。 A:100%、B:99%~90%、C:89%~80%、D:79%~70%、E:70%未満	C	生徒アンケート「基礎・基本が身に付いてきているか」は前年とほぼ変わらず3.0、「楽しい授業になっているか」3.1であった。満足度の低い評価2以下が1つ(13%)ずつあった。	各教科における丁寧な個別指導により、積極的に学習に取り組む生徒は増えてきている。特に1年生は、どの授業にも大変興味を持ち、素晴らしい学習態度であるため、この雰囲気を持し、さらなる数値の改善をめざしていく。生徒数の急減に合わせ、評価の数値目標は再検討が必要である。	C
特別活動	学校行事への参加	生徒が主体的に学校行事に取り組み、学校行事の満足度100%を目指します。 A:100%~90%、B:89%~70%、C:69%~60%、D:59%~50%、E:50%未満	A	生徒アンケートにおいて「学校行事の実施内容は適切で、積極的に参加でき充実していますか」という問いに対して肯定的な回答をしたものは、100%であった。	生徒が主体的に活動し、目標である100%を達成することができた。来年度も生徒の意見を取り入れながら学校行事を充実させていきたい。	B
生徒指導	出席率の向上	出席率90%以上を目指します。 A:90%以上、B:89%~80%、C:79%~70%、D:69%~60%、E:60%未満	B	昨年度とほぼ同様の割合を維持している。(89.6%)	不登校傾向の強い生徒が増えてきている中、出席率を維持していることは大きい。今後も一人一人の生徒としっかりと向き合いながら、さらなる出席率の向上を目指したい。	B
	1か年皆勤者	1か年皆勤者・精勤者30%以上を目指します。 A:30%以上、B:29%~25%、C:24%~20%、D:19%~10%、E:10%未満	D	今年度は17%となり、昨年度の27%と比較すると、大きく数値を落とした。	原因は複数挙げられるが、やはり生徒数の急減が一番大きい。目標自体の再設定を検討したい。	B
	挨拶の励行	さわやかな挨拶ができる生徒100%を目指します。 A:100%、B:99%~90%、C:89%~80%、D:79%~70%、E:70%未満	B	ほとんどの生徒が、校内での挨拶ができている。授業の開始や終わりの挨拶もさわやかな挨拶ができている。	まだまだ受け身の生徒が多い。これからは、進んで積極的な挨拶ができるように指導していきたい。	B
	生徒理解	年間5回以上の個人面談を行うなど、生徒理解に努めます。 A:5回以上、B:4回、C:3回、D:2回、E:1回未満	A	各クラス担任は、年度初めに1回、学期末の面接週間に3回、他にも随時実施している。担任以外の教員も随時面談しており、生徒理解に努めている。	教員と生徒間の距離は近く、良好な関係が保たれた。個別の悩み等は概ね相談できる望ましい関係であると思われる。	B
保護者連携	保護者の学校行事への参加	保護者の学校行事への出席率50%以上を目指します。 A:50%以上、B:49%~40%、C:39%~30%、D:29%~20%、E:20%未満	B	定時制の全保護者参加の学校行事はPTA総会(参観授業・個別懇談)及び運動会である。PTA総会参加保護者は5名(41%)、運動会6名(50%)という結果である。	定時制の場合、18時ぐらいから行事が始まることが多いが、夜まで勤務している保護者が多く、遅れて参加する保護者が多かった。これ以上の保護者の参加を促すためには、なんらかの工夫が必要かもしれない。	B
		ホームページの更新を年間100回以上行い、生徒の活動状況を積極的にお伝えします。 A:100回以上、B:90回以上、C:80回以上、D:70回以上、E:70回未満	D	ホームページの更新は1月末現在で59回である。年度末までに100回は厳しい状況ではあるが学校行事等の発信はこまめに行っている。	在校生のみならず、保護者や地域の方等にホームページを閲覧していただけるように内容等を工夫し、認知度を高めていきたい。	B
進路指導	進路実現の支援	各機関との連携を密に行い、進路実現100%を目指します。 A:100%、B:99%~90%、C:89%~80%、D:79%~70%、E:70%未満	A	生徒の納得のいく進路実現ができた。また、卒業後も支援が必要な生徒については、関係機関と連携し、卒業後も支援が継続する体制を作ることができた。	キャリア教育をさらに推進していく必要がある。特に、進路選択や就職の情報提供に力を入れたい。	A
教職員	業務改善・働き方改革	年次有給休暇の取得率80%以上を目指します。 A:80%以上、B:79%~70%、C:69%~60%、D:59%~50%、E:50%未満	B	令和5年8月末時点での取得率は、70.0%であった。長期休業中等に休暇を取得するなど働き方改革を進めてきた。	約9割の職員が合計で5日以上有給休暇を取得した。長期休業中や業務に負担が少ない時に声掛けをするなどライフワークバランスを図っていきたい。	B

※評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。